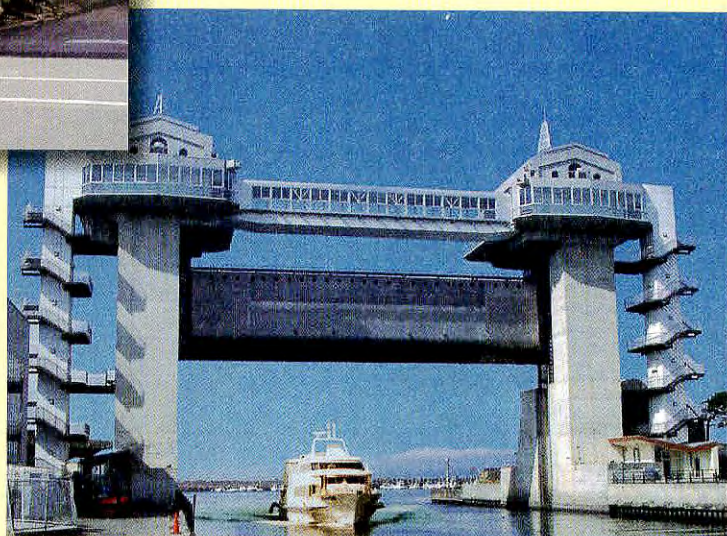


地震・津波

防災マニュアル

「自らの命は自ら守る 自らの地域は皆で守る」



沼津市

沼津市では、「災害に強い安全なまちづくり」を重点課題として取り組んでまいりました。

防災訓練、自主防災組織の活動等により、市民の防災意識の高揚に努めているところですが、東海地震説が発表されてから30年、また阪神・淡路大震災から11年、新潟県中越地震から2年が経過し、「のど元過ぎれば熱さを忘れる」のたとえのごとく、防災意識が薄れてきていると感じられる時もあります。

沼津市では、平成8年3月に津波避難マニュアル、平成14年に地震防災マニュアルを作成しましたが、平成13年5月に静岡県が東海地震の第三次被害想定を発表しました。また、平成17年4月には戸田村と合併し新沼津市が誕生しました。

このことから、従前の津波避難マニュアル、地震防災マニュアルを第三次被害想定及び戸田地域を含めた内容の地震・津波防災マニュアルとして新たに作成しました。

「自らの命は自ら守る。自らの地域は皆で守る。」という防災の原点に立ち戻り、ご家族、ご近所で地震・津波対策を真剣に話し合う資料としてこの冊子を活用していただきますよう、お願いします。

平成18年4月

も く じ

敵は地震だ！まず敵を知ろう

沼津市に被害を及ぼす地震 1

東海地震注意情報と警戒宣言

東海地震の予知情報と警戒宣言 2,3

東海地震注意情報が発表されたら？警戒宣言が発令されたら？ 4

警戒宣言発令！避難はどうしたら 5

東海地震が発生したら

沼津地域の推定震度分布 気象庁震度階級 6

沼津市の被害想定 7

津 波

東海地震による津波危険地域図 8

津波の特徴 9

突然の地震、大津波が襲来してくる 10

安政東海地震 11

安全に避難するために

外出先で地震！さあ、どうしよう？ 12

非常持ち出し品・備蓄品 13

役割分担行動表や防災マップを作ろう 14

家具等の転倒防止 15

わが町を守るために

地域の自主防災活動に参加しよう 16

応急活動でまちを救え！ 17

避難地一覧表 18

沼津市に被害を及ぼす地震

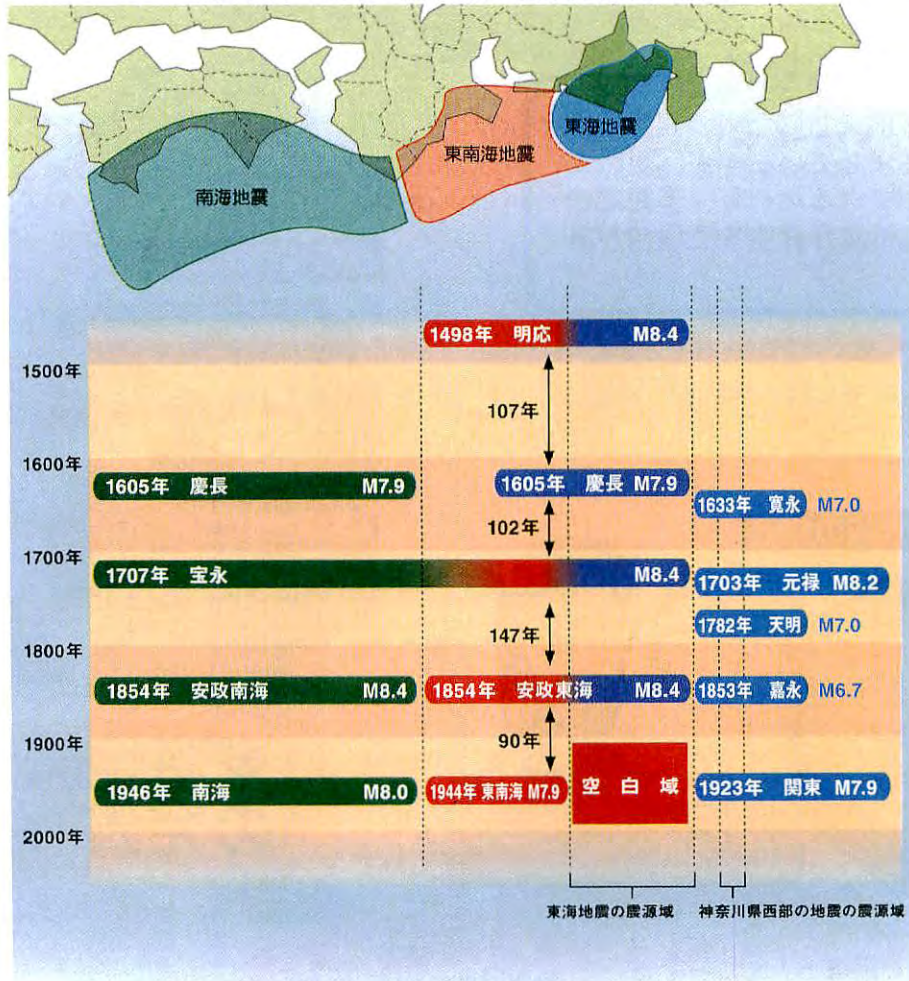
東海地震

1854年の安政東海地震以来、駿河湾から御前崎沖では150年近く大地震がなく、地震のエネルギーが蓄積されており、このため東海地域は地震活動の空白域と呼ばれ、**近い将来巨大地震**（マグニチュード8程度）が発生し、**大きな**

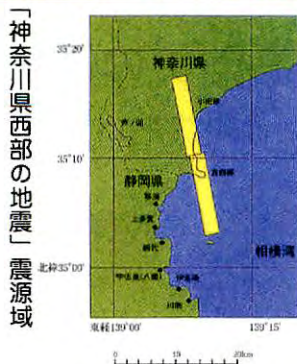
被害が生じると予想されています。

沼津市では、市内各地で震度6弱から7の揺れに襲われ、津波はもちろん、地震動や液状化現象、山・崖崩れ、火災などにより、人や建物に大きな被害が発生すると想定されています。

太平洋岸で起こった過去の大地震と想定震源域



神奈川県西部の地震



神奈川県西部の地震

神奈川県西部地域でも、近い将来マグニチュード7程度の地震発生が予想されています。この地域は、フィリピン海プレートが北米プレートに潜り込む位置にあたり、プレートの移動によって伊豆半島側の部分と相模湾側の部分が裂けることにより地震が起こる、と考えられています。

東海地震の予知情報と警戒宣言

1) 地震予知

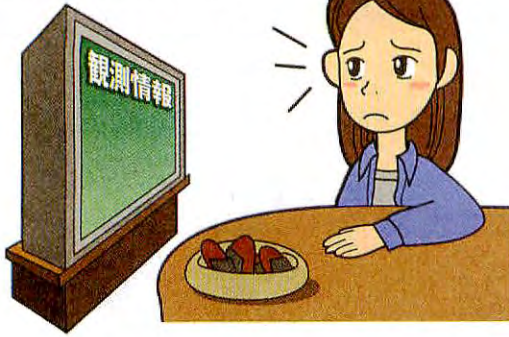
一般的に「地震予知は非常に困難」とされていますが、東海地震はマグニチュード8クラスの海溝型地震で濃密な予知観測網が設置されているので、直前予知が可能な場合があると考えられています。

東海地震の予知は、ひずみ計などの観測機器を使って24時間監視を行い、観測データの変化をとらえ、それが直ちに東海地震の発生に結びつくかどうかを判定しようとするものです。

突発地震の可能性

東海地震直前予知のための観測技術などは年々進歩していますが、現状では直前予知ができる場合と、**予知できずに突然東海地震が発生する場合があります。**

観測情報の発表



注意情報の発表



東海地震注意情報の発表 (判定会開催)

前兆現象の可能性が高まった

東海地震観測情報の発表

防災の準備行動

地震活動などの観測データに変化

2) 東海地震の予知に関する情報の発表

科学技術の進歩により、警戒宣言の前に、観測データの変化の推移について説明できると考えられ、東海地震の前兆現象の可能性が高まったことを示す情報が、次の3つに区分して発表されます。

東海地震観測情報

観測データに異常が現れているが、前兆現象かどうか直ちに評価できない場合に発表されます。(※東海地震の発生のおそれが高まったときや、東海地震とは直接関係ないと判断されたときにも発表されます。)

東海地震注意情報

前兆現象の可能性が高まったと認められた場合に発表されます。これを受け、準備行動を始めます。(※判定会開催は、この情報の中で報じられます。)

東海地震予知情報

東海地震が発生するおそれがある場合に発表されます。この発表と同時に、警戒宣言が発令されます。(※注意情報と予知情報は、解除する場合にも発表されます。)

東海地震予知情報の発表

直ちに
防災対策を
実行

東海地震が
発生する
恐れがある

警戒宣言発令



警戒宣言の発令

内閣総理大臣

3) 警戒宣言の発令

観測データの異常が増大し、東海地震の発生のおそれがある場合に、気象庁長官からの報告を受けて、内閣総理大臣は、静岡県を含む「地震防災対策強化地域」に対して、「警戒宣言」を発令することになります。

このとき、同時に気象庁から東海地震予知情報が発表されます。

警戒宣言とは

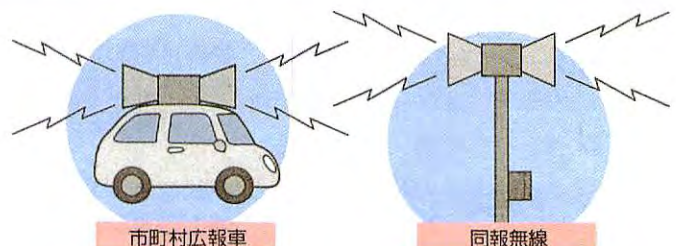
「2・3日以内（または数時間以内）にマグニチュード8程度の大地震（東海地震）が発生し、静岡県全域を含む地域が震度6弱以上の揺れに襲われる」という警告であり、「大規模な地震の発生に備えて、安全の確保や防災準備を行ってください」という指示です。

(注) 警戒宣言が発令されてから、地震発生までの時間が短いことも考えられます。

東海地震注意報などの発表や警戒宣言の発令は、テレビやラジオで報道されます。

また、市町村の広報車や広報用スピーカーなどでも伝えられます。

特に、警戒宣言ではサイレンをならすこととなっています。



市町村広報車

同報無線

東海地震注意報が発表されたら？警戒宣言が発令されたら？

東海地震注意情報が発表されたとき、警戒宣言が発令されたとき、私たちの身の回りはどうなるのか、社会の動きをよく理解して、安全で適切に行動することが大切です。

社会状況

	東海地震注意情報の発表時	警戒宣言発令時
電気・ガス・水道	使用可能 (水道水は溜めておく)	使用できるができるだけ使わない
電 話	使用可能 (ただし、利用者が急増すると通話規制がとられる)	使用可能 (利用者が急増し、通信規制がかかる可能性大)
バ ス	原則として平常どおり運行	最寄りの安全なバス停等まで走行し、運行中止
鉄 道	原則として平常どおり運行	最寄りの安全な駅まで運行し停車
道 路	平常どおり通行可	避難路などを確保するため、 幹線道路などで交通規制（車は徐行運転）
百 貨 店	部分的または段階的に営業中止	営業中止 (ただし、一定の耐震性がある店舗は営業継続可)
コ ン ビ ニ 等	平常どおり営業	一定の耐震性が確保されている店舗は営業継続
銀 行	平常どおり営業	営業中止 (ただし、一部のATMは営業継続)
病 院 等	原則として外来診療規制 (急患を除く)	外来診療中止 (急患を除く)
学 校 ・ 幼 稚 園	児童等の安全を考慮し、帰宅または保護者に引き渡す (養護学校等では、より前の時点で帰宅等)	閉校、閉園 (一部の教職員は待機)

災害用伝言ダイヤル

災害発生後、家族や親戚などの安否を確認したい時、NTTの「災害用伝言ダイヤル」(171)があります。

被災者の方が録音した安否情報などを、全国に設置された「災害用伝言ダイヤルセンター」を通じて確認することができます。

録音／再生時のダイヤル方法 録音時間／1伝言 30秒以内

◆録音するときは **171**…**1**…**0XX**…**XXX**…**XXXX**… **録音**

被災地内のNTTの自宅電話番号

◆再生するときは **171**…**2**…**0XX**…**XXX**…**XXXX**… **再生**

サービスの開始時期

- ◆震度6弱以上の地震の発生
- ◆地震以外の自然災害で電話が相当混み合っている時
〈毎月1日(1月1日は除く)には、体験利用ができます〉

利用可能な端末

- ◆録音時間1伝言 30秒以内
- ◆携帯電話PHSからも利用できます(一部の事業者を除きます)

警戒宣言発令！避難はどうしたら

警戒宣言発令！避難はどうしたら

東海地震の発生が予知されると警戒宣言が発令されます。発令と同時に避難する必要のある人は、「津波危険地域」「山・崖崩れ危険地域」「軟弱地盤地域」に住む人たちです。速やかに非常持出品を携行し、自主防災会ごとにまとまって指定された避難地へ避難しなければなりません。



その他の地区に住む人は、避難する必要はありません。但し、耐震性のない建物に住んでいる人、耐震があっても家具の固定などの家庭内対策をほどこしていない人は、庭などの自宅敷地内で安全な場所や、自宅近くの空き地などの屋外に避難し、東海地震に備えましょう。

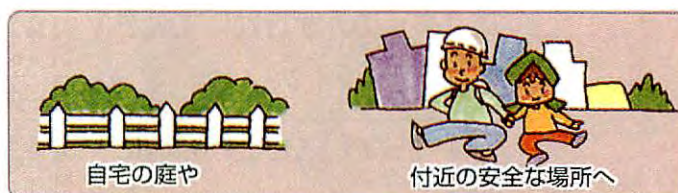


警戒宣言発令時の避難

危険予想地域はすぐに避難を！



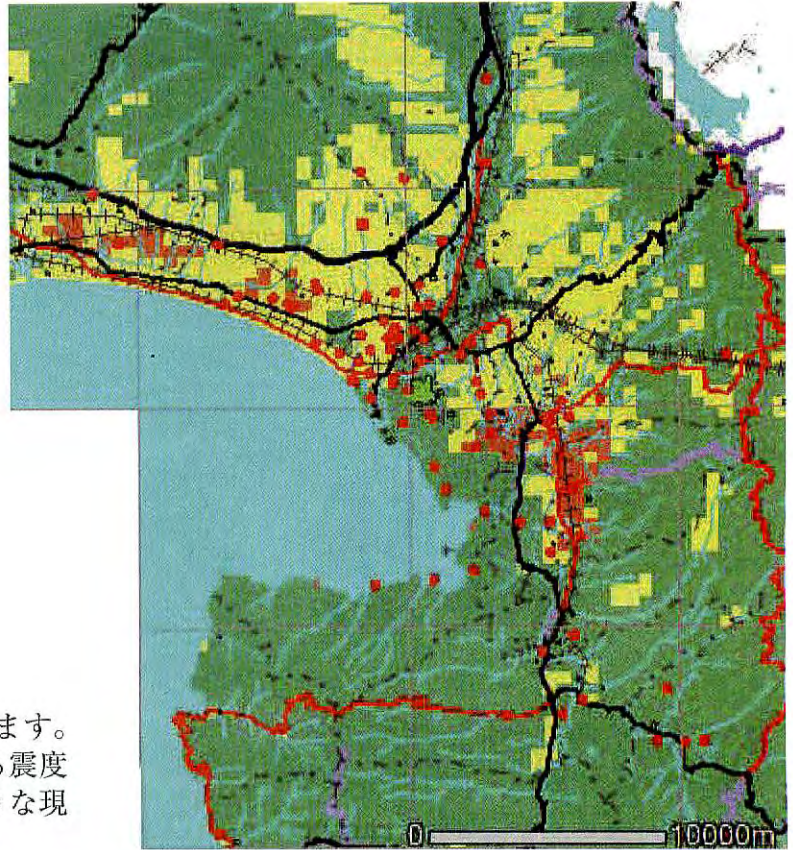
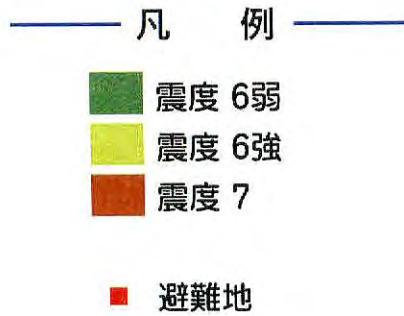
その他の地区では、わが家の耐震強度を考えて行動！



自分の住む地区が警戒宣言発令時に避難が必要な地区かどうか、また最寄りの避難地はどこか、18ページをみて確認しておきましょう。

東海地震が発生したら

推定震度分布



震度階級 [抜粋]

震度は、計測震度計を用いて観測します。次の気象庁震度階級関連解説表は、ある震度が計測された場合、その周辺でどのような現象や被害が発生するかを示すものです。

計測震度	階級	人間	屋内の状況	屋外の状況
0.5	0	人は揺れを感じない。		
	1	屋内にいる一部の人が、わずかな揺れを感じる。		
1.5	2	屋内にいる多くの人が揺れを感じる。眠っている人の一部が目を覚ます。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。	
2.5	3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。	棚にある食器類が音をたてることもある。	電線が少し揺れる。
3.5	4	かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚めます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
4.5	5弱	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。
5.0	5強	非常な恐怖感を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸がはずれる。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難になり、停止する車が多い。
5.5	6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
6.0	6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
6.5	7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。

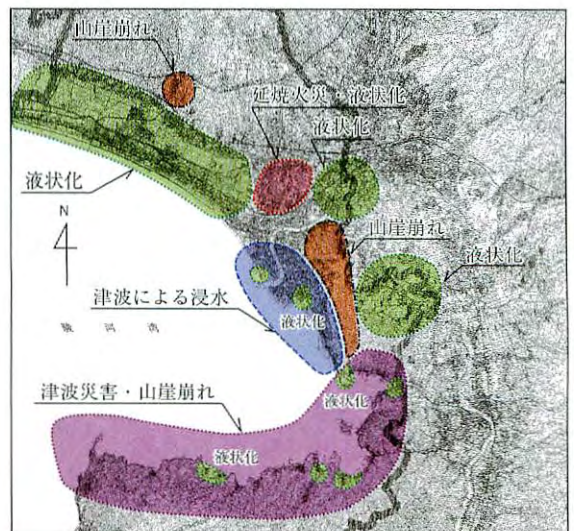
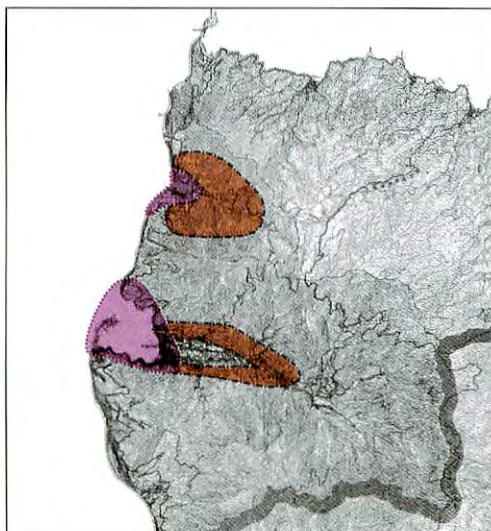
沼津市の被害想定

静岡県が想定される東海地震の被害をまとめ、平成13年5月に第3次被害想定を公表しました。沼津市内の被害想定は次のとおりです。町内別の数字についてはインターネット (<http://www.e-quake.pref.shizuoka.jp/data/pref/higai/data/index.html>) で公開しています。

摘 要		予知されたとき			予知がないとき			
沼津市建物棟数		73,335棟 (H10.1.1現在)						
沼津市人口		216,470人 (H7年国勢調査)						
摘 要		冬の朝5時	冬の夕18時	春・秋の昼12時	冬の朝5時	冬の夕18時	春・秋の昼12時	
建 物 被 害	地震動・液状化による被害	大破棟数	7,234棟	冬の朝5時と同じ	7,115棟	冬の朝5時と同じ		
		中破棟数	16,423棟		16,063棟			
		一部損壊	15,223棟		14,793棟			
	山・崖崩れによる被害	大破棟数	232棟		227棟			
		中破棟数	558棟		540棟			
	人工造成地の建物被害	大破棟数	554棟		554棟			
		中破棟数	1,663棟		1,662棟			
	津波による被害	大破棟数	1,835棟		1,835棟			
		中破棟数	881棟		778棟			
	火災による被害	焼失棟数	8棟		690棟			5,662棟
合計(重複部分を除く)	大破棟数	9,550棟	10,046棟	14,453棟	10,565棟			
	中破棟数	17,942棟	17,234棟	16,006棟	17,086棟			
人 的 被 害	建物による被害	死 者	63人	36人	39人	244人	136人	145人
		重 傷 者	92人	74人	78人	352人	281人	299人
	津波による被害	死 者	25人	25人	25人	164人	164人	164人
		重 傷 者	36人	36人	36人	239人	237人	237人
	火災による被害	死 者	1人	1人	1人	12人	48人	6人
		重 傷 者	1人	1人	1人	12人	52人	7人
	山・崖崩れによる被害	死 者	6人	5人	6人	34人	30人	32人
		重 傷 者	9人	8人	9人	57人	50人	53人
	ブロック塀・石塀倒壊	死 者	0人	1人	1人	1人	4人	3人
		重 傷 者	0人	1人	1人	2人	16人	13人
	屋外落下物	死 者	0人	1人	1人	1人	4人	4人
		重 傷 者	0人	1人	1人	2人	20人	15人
	屋内収容物被害	死 者	2人	2人	2人	8人	5人	5人
		重 傷 者	85人	76人	81人	710人	639人	678人
	合 計	死 者	99人	71人	75人	464人	391人	359人
		重 傷 者	223人	197人	207人	1,373人	1,295人	1,302人

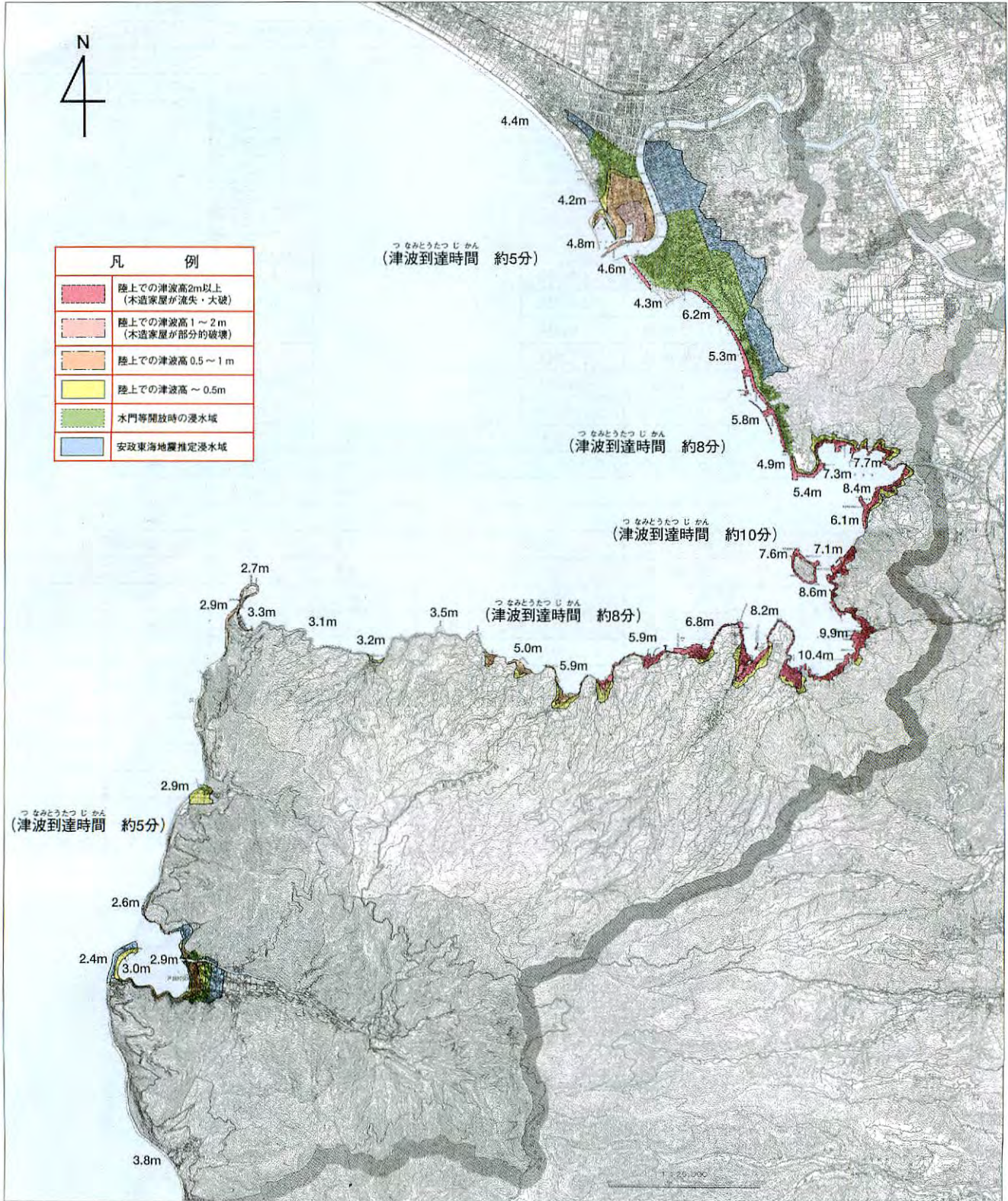
東海地震での危険要因(概念)

- 液状化
- 延焼火災・液状化
- 津波による浸水
- 津波災害・液状化
- 山崖崩れ



東海地震による津波危険地域図（想定される津波高と到達時間）

東海地震が発生すると、地震後約3分～10分で津波の第一波が、沼津市内の沿岸部に来襲すると想定されています。その津波の波高（満潮時の波打ちぎわでの高さ）は、約4m～10mにも達し、大きな津波災害が発生することになります。



「この地図は沼津市政策企画課が作成した沼津市区域図を使用したものである。」

●この地図では、東海地震がおきたとき、沼津市にやってくる「津波の」大きさと時間などをあらわしています。

津波の特徴

東海地震が発生し、津波が襲ってきたときに、「津波の特徴を知っている・知らない」、「津波避難の知識がある・ない」では、「命が助かる・助からない」という重大な結果につながります。

◎津波の特徴

東海地震では、駿河湾を中心とする南北約 120km の断層が上下方向に 2～3m 程度変動し、海面が盛り上がり、津波が発生します。津波の高さは、海の水深が浅くなればなるほど高くなります。特に、V 字型の湾では、津波の高さが急激に高くなります。

東部地域の駿河湾沿岸では、地震発生後、わずか 5 分程度で津波の第 1 波が到達し始めます。津波の高さは 2.4～10.4m、浸水面積は約 3.4km² と想定されています。特に江浦湾、内浦湾では V 字型の湾となっていることから、周辺地域に比べて非常に高い津波の高さになっており、できるだけ高い場所に避難する必要があります。

津波は、1 波、2 波、3 波と繰り返し襲ってきます。必ずしも第 1 波が最大になるとは限りません。少なくとも 12 時間程度は警戒が必要です。

津波の速さ

海の水深が浅くなればなるほど、津波の速さは遅くなります。

$$\text{津波の速さ} = \sqrt{9.8 \times \text{水深(m)}} \quad (\text{m/s})$$

- ・ 水深 2,000m = 約 500km / 時
- 200m = 約 160km / 時
- 10m = 約 36km / 時
- ・ 陸上での津波は、ほぼ大人の全速力と同じ速さになります。

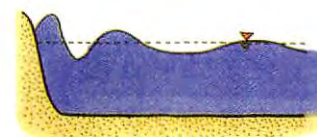
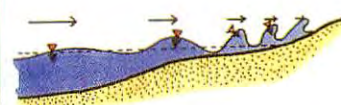


津波の高さ

水深が浅くなると、津波は速度を落とし、その分波高が急激に高くなります。

さらに、遠浅の海岸では、段波状になったり、V 字型の湾では、波高が急激に高くなったりします。また、湾内で共振して、波高が増幅して高くなることもあります。

水深が浅くなると津波の速さが遅くなり、後ろからの波が覆いかぶさるようになります。



津波の波長

津波の波長は、約 10km と非常に長いので、沖合いでは津波を感じられないこともあります。水深が 200m 以上ある海域では、船舶への被害が少ないため、時間的な余裕さえあれば、船舶の沖出しも可能です。



津波の周期

津波の周期は、約 7～14 分（台風時の高潮はせいぜい数 10 秒）と非常に長く、少しでも開口部があれば、そこから広く浸水し、被害を拡大させることとなります。



津波は繰り返し襲来

津波は 1 波、2 波、3 波と繰り返し襲ってきます。少なくとも 12 時間以上は警戒が必要ですし、必ずしも 1 波目が最大とは限りません。浸水するときより、引くときの方が力が強く、被害を大きくします。



突然の地震、大津波が襲来してくる

さあ、どうすればいい？

まず、我が身の安全を
まっ先に考える

自分がけがをしては、避難もままならない。

近くの高台までの避難と、
より高いところへの避難を実施

過去の浸水地域や想定津波危険地域だけを過信しないで、いざという時は一段高台の、より安全な場所にも避難できるようにしよう。

家具の固定、通路の整理など
日頃の安全対策が必要

地震で家具が転倒してしまったり、通路が散乱しては、いざ逃げようとしても避難できなくなる。基本的な家庭での地震対策が必要

車による避難は原則禁止

ちょっとした原因で車は渋滞し、津波に巻き込まれる危険性が高い。

財産（家財や持ち船など）の
保全や持ち出しはあきらめる

貴重品を取りに戻って津波に巻き込まれた人、船が心配になって様子を見に行って津波に巻き込まれた人も多い。

堅い物（岩場や堤防など）から
できるだけ離れる

津波に飲み込まれた場合、死因の多くは岩やコンクリートなどの堅い物にたたきつけられて気絶したり、負傷して死亡するケースが多い。

津波が浸水をはじめたら
遠くへの避難はあきらめ、近くの高い建物
など、できるだけ高いところへ上がる

浸水している中では、漂流物にぶつかるなど転倒する危険が大きく、けがをしたり、避難できなくなる。

注意！

つりやサーフィン、海水浴などで沿岸部にいる人も地震の揺れを感じたらすぐに避難できるように心掛けておく事が大切です。



安政東海地震

1854年12月23日(旧暦安政元年11月4日)午前9時ごろ発生した安政東海大地震は、予想されている東海地震との類似点が多く、また、津波等の被害状況が詳細に残されているため、東海地震による沼津市内各地の地震被害を考えるうえでの貴重な資料となっています。

ちなみに、この地震での市内の推定震度は、震度6~7とされています。

地震の概要

静岡県遠州灘沖が震源地(震央) マグニチュード8.4

下田から遠州灘、伊勢志摩、熊野灘沿岸に津波が襲来した。

倒壊焼失家屋約3万棟以上、死者2,000~3,000人

沼津市域の安政東海地震の被害

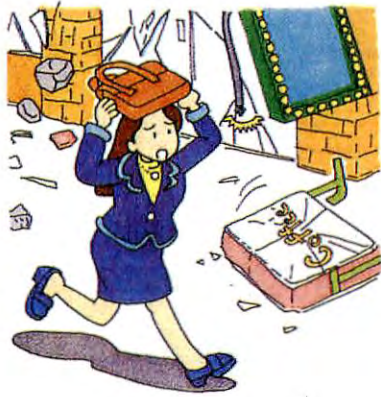
場所	被害内容	津波高	出典	所蔵	場所	被害内容	津波高	出典	所蔵
沼津藩領	「御領分村方潰家凡 四千九百参拾九軒」		『嘉永七甲寅歳地震之記』	山崎英彦氏所蔵	三津	死者なし	5~6m		
沼津城	「沼津水野出羽守榊城御本丸御役所諸家中不残潰レ土手御門下町御ヤグラ西の方ヤグラ計残ル」		「大地震記録」	三島市郷土資料館		居室流失1軒、普流3軒、普流4軒、破損31軒、土蔵皆潰6ヶ所、破損28ヶ所、物置流失1ヶ所、普流2ヶ所、普流16ヶ所、破損8ヶ所		「大地震大浪書上帳 写」[三津羽田家文書]	当館蔵
沼津藩士居宅	「屋敷普潰者40名、半潰27名、小垣2名、歳潰住居半潰1名、歳半潰住居半潰1名」		『嘉永七甲寅歳地震之記』	山崎英彦氏所蔵	長浜	死者負傷者なし	6.3m		
千本松原	「地震ヨリ半時ばかり過て津波千本松原え打来凡五十間程幅丈丁程かきとり汀深さ凡四拾尋程に相成候由川口ヨリ狩野川へも打込河岸土蔵物置流失有之」	3m前後	『嘉永七甲寅歳地震之記』	山崎英彦氏所蔵		家屋無事5軒、三分潰2軒、五分潰12軒、六分潰2軒、七分潰5軒、八分潰1軒、九分潰9軒、普潰流失6軒		「大地震大津波二付書上帳」[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
	「回刻、川口より津波に而平町裏宮ヶ瀬迄水押来り候事平水より六尺程高くなる」		『記録(下石田村名主伴右衛門)』	青木栄実氏所蔵		普流6軒、居室は残ったが要立柱29軒、物置小屋流19軒、居室無難物置小屋崩3軒、半潰2軒、居室無難土蔵物置小屋大崩2軒、網小屋諸道具共普流16軒		「書上之事(地震津波被害)」	三津羽田家文書
間門村西	「是より間門村より原宿植原より元吉原迄格別ノ事モナシ」		「大地震記録」	三島市郷土資料館	重須	死者3人重傷1人	6.7m		
下石田	潰家59軒、半潰17軒		『記録(下石田村名主伴右衛門)』	青木栄実氏所蔵		「重須村四十宅軒流出、土蔵等も残らず流失、流死人老人これあり、三十郎と申者」		(嘉永七年 地震津波に関する覚書)[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
小林	「凡家拾式軒程土中ニめり死人九人之内七人追々掘出し武人は終に不知土地めり込凡五拾間程長式丁程深さ四五丈」 「小林村並上小林村大変之事無類に而下小林村者甚歳太兵衛忠兵衛右エ門房歳半左エ門伊右エ門安左エ門藤七与右エ門徳居同所甚兵士土居右拾老軒家屋敷共其候一様に三丈余も地中へめり込其限谷之様に相成北右場所東之方浅付に而川手江ゆり出し候事前代未開成事に候死人九人内武人死骸出候得とも跡は出申候」		『記録(下石田村名主伴右衛門)』	青木栄実氏所蔵		「重須村ハ六十三軒ノ所五十三軒流レ」		「大地震記録」	三島市郷土資料館
	「小林村ハ本家九軒大地めり込但し立巻軒半ほど横式十間ほどをつらへ九人の所武人ほり出し残り七人は一切相不知れ」		「大地震記録」	三島市郷土資料館	木負	「木負村は地震痛多候、地頭見分有之」	3~4m	長浜大川家(大屋)文書[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
岡宮	岡ノ宮村光長寺不残潰損し村高六百石ニテ本家八十三軒惣家数六百式軒潰レ		「大地震記録」	三島市郷土資料館		11歳女地震犠死		長福寺過去帳	
西熊堂	潰居家17軒、半潰居家12軒、大破居家15軒		「地震潰居家半潰大破書上帳」	西熊堂区有文書	久速	「当村ニ而家式拾軒諸道具共流失致し候」	6m	長浜大川家(大屋)文書	沼津市歴史民俗資料館寄託
根方方面	「根方通ハ村々式三軒又ハ五六軒位ノ事」		「大地震記録」	三島市郷土資料館		「久速も余程引き出し流れも老人これあるよし」		(嘉永七年 地震津波に関する覚書)[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
下香貫	「田地変ジテ湖水トナル、湖水幅一里程長一町半深サ凡四五間」		『嘉永七甲寅歳地震之記』	山崎英彦氏所蔵		「久速番人死す」		長福寺過去帳	
	「下香貫桃郷東ノ山根通より坂溝迄ノ間凡田地式百依預ケほど湖水ニ成」		「大地震記録」	三島市郷土資料館	立保	「一、男老人、死骸差置申候、百姓・源四郎、往年六十五才、右は去ル十一月四日津浪立之朝、船繋ニまかり出、其儘曳出され、溺死つかまり候」	5m	久料久保田家文書	沼津市歴史民俗資料館寄託
	「其外山宮様木門より津打入田地大あれ」		「大地震記録」	三島市郷土資料館	占宇	「占宇村津波荒れに浜通り引き出し候」	5m	(嘉永七年 地震津波に関する覚書)[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
馬込	大人3人、子供1人(大地震)	4~5m	釣月寺記録		足保	死者なし	3m	保徳寺記録	
獅子浜	大人2人(地震によるものか)	4~5m	楞嚴院過去帳		久料	居家皆潰2軒、大破2軒、中破1軒、小破損10軒、網船小屋流失1軒、網屋皆潰1軒、小破1軒、小船大崩1艘	2m	久料久保田家文書	沼津市歴史民俗資料館寄託
江ノ浦		6.0m				流失4戸		福聚院伝承	
多比		7.2m			江梨		1~2m	(嘉永七年 地震津波に関する覚書)[長浜大川家(大屋)文書]	沼津市歴史民俗資料館寄託
重寺	「重寺ハ格別ニモナシ」	2.5m	「大地震記録」	三島市郷土資料館		溺死者1名		航補院過去帳	
小海	「去ル四日地震并ニ津波浪に而網小屋四軒漁道具不残流失」	4m	(小海増田家文書)	沼津市歴史民俗資料館寄託	井田	溺死者1名か?	3m	妙田寺過去帳	
	「三津小海流レ」		「大地震記録」	三島市郷土資料館	戸田	流失家屋24、潰家81、大破33、中破小破は村内一統に及び漁船、大網も大破、水死者30人	4~5m	「三島加助郷への使役請免の嘆願書」	戸田村立造船郷土資料館博物館
	死者なし					死者31人、負傷者25人、軽傷者無数、普潰家25戸、船壁破損全戸数の3分の1、橋梁皆破7ヶ所、破損25隻		『戸田村誌』	戸田村立造船郷土資料館博物館

※津波高は地図上の水準点からの推定。数値は都司1985による。

外出先で地震! さあ、どうしよう?

路上で

- バッグや両手などで頭を保護して近くの街路樹の下や丈夫そうな建物の中へ逃げ込みましょう。瓦や窓ガラス、看板などが落下してきます。
- ブロック塀や門柱、自動販売機などから遠ざかりましょう。
- 電柱の変圧器の落下や電線の垂れ下がりに注意。
- 狭い路地は危険。なるべく広い場所に逃げましょう。



バスや電車の中で

- つり革や手すり、目の前のシートを両手でしっかり握り、両足を踏ん張りましょう。
- 途中で止まっても、あわてて外へとびださないように。
- 乗務員の指示に従いましょう。



駅やホームで



- カバンなどで頭を保護し近くの柱に身を寄せるかベンチの下にもぐり込みましょう。
- ホームから転落しないように注意しましょう。

劇場やホールで

- 座席を跳ね上げその場にしゃがみ、カバンなどで頭を保護します。
- 出口に殺到しないこと。
- 係員の指示に従い、落ち着いて行動しましょう。



デパートやスーパーで

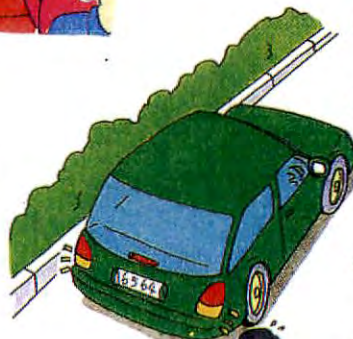
- 落下物などを避けるため、陳列ケースや棚から離れましょう。
- 手近に買い物カゴがあれば頭にかぶりましょう。ヘルメットの代用になります。
- 大きな柱や壁際に身を寄せて、従業員や店内放送の指示に従い、落ち着いて行動しましょう。



エレベーターで



- 揺れを感じたら、全ての階のボタンを押し、最初に停止した階ですぐに降ります。
- ドアが開かなかつたら、緊急連絡ボタンを押して指示を待ちましょう。



自動車運転中に

- 大きな揺れを感じても急ブレーキを踏んではいけません。
- 徐々に速度を落とし、ハザードランプを点滅させ、道路の左側に停車してエンジンを切ります。
- カーラジオをつけて地震情報を聞きましょう。
- 避難する必要がある時は、キーはつけたまま、ドアロックもしないで、車検証などの貴重品だけをもって逃げましょう。

非常持ち出し品・備蓄品

非常持ち出し品は、家族構成を考えて必要なものを用意しておきましょう。「わが家の非常持ち出し品リスト」を作り定期的に点検を行ない、非常持ち出し袋などに入れ、いつでも持ち出せる場所に置きましょう。また、備蓄しておき後で取り出す物と分けておきましょう。

1) 非常持ち出し品チェックリスト (例)



2) 備蓄品チェックリスト (例)



夜、寝ているときも

身近な所に、懐中電灯、ラジオ、靴またはスリッパなどを置いておきましょう。(素足では、割れたガラスでケガをします。)



赤ちゃんのいる家庭では

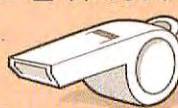
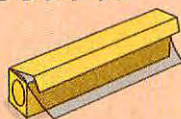
ミルク、哺乳ビン、離乳食、スプーン、オムツ、清浄綿、おぶい紐、バスタオル又はベビー毛布、ガーゼ又はハンカチなどを追加。



3) あると便利な物

阪神・淡路大震災では、長引く避難生活の中で、さまざまなグッズが注目されました。

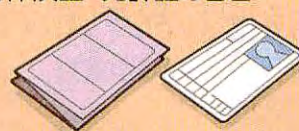
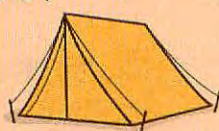
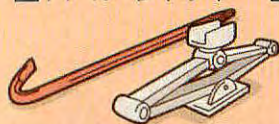
- ウェットティッシュ サランラップ マスク 笛 (ホイッスル) 携帯用カイロ



- パール・ジャッキ テント

- バイク・自転車

- 保険証・免許証のコピー



役割分担行動表や防災マップを作ろう

役割分担行動表

名前	ふだんの日の昼間にいる可能性の高い場所	家族の集合場所	避難所

★家族の役割

内容	名前	内容	名前	内容	名前	内容	名前
ラジオ・テレビで情報を確認		窓ガラスなどにガムテープをはる		電気器具のコンセントを抜く		非常持出し品の確認	
火を消す		出入口を確保する		棚の上から物をおろす		すぐに戻って来れない家族への伝言があれば書いておく	
ガスの元栓、プロパンガスボンベのバルブを締める		消火器・バケツの用意		家具などを倒れないようにする		子供や老人の世話	
危険物を安全なところに移す		飲料水を確保					

付近の防災マップを作ろう

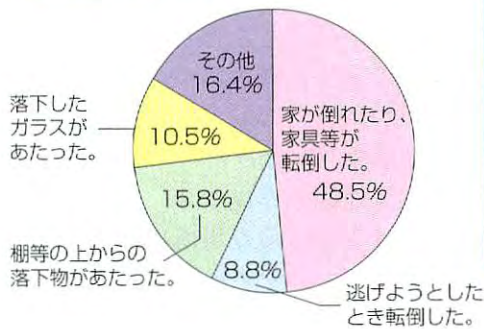
(例)

The example map shows a central house labeled '我家' (My Home). To the left is a '公園' (Park) with a tree and a bench. To the right is a '消防署' (Fire Station) with a fire truck. Below the house is a '病院' (Hospital) with a cross symbol. A '防災マップ' (Disaster Map) label is also present.

家具等の転倒防止

地震のとき、家具の転倒、棚からの物の落下やガラスの破損などによって死亡したりケガをしています。タンスや食器戸棚などの家具のほか、冷蔵庫やテレビの電化製品なども転倒や落下防止対策、ガラス飛散防止対策、ガラスに飛散防止フィルムを貼るなどの対策を行なってください。また、寝る場所には、家具を置かない、配置を工夫するなど安全に対する備えが必要です。

阪神・淡路大震災でケガをした人の原因

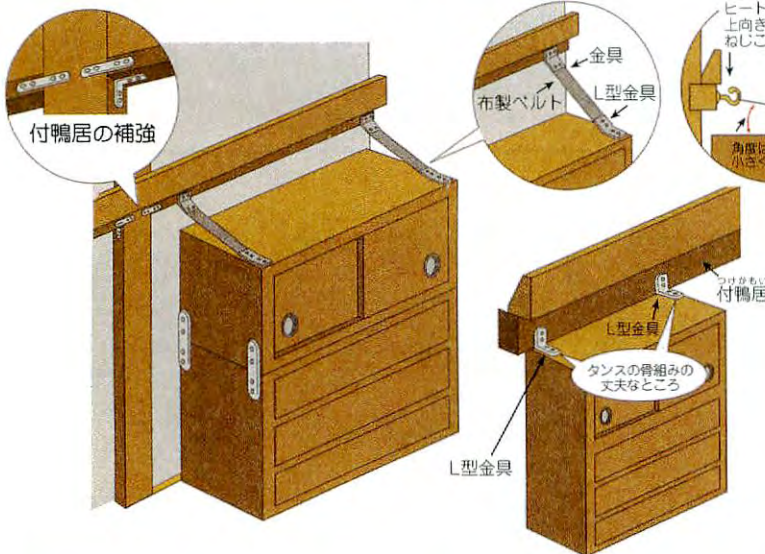


用意するもの

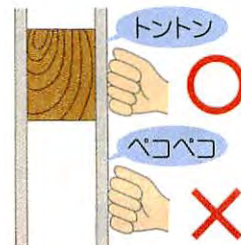
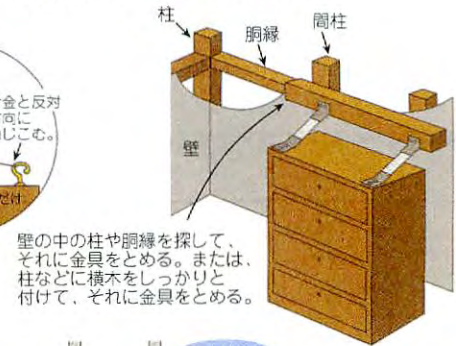


タンスのとめかた

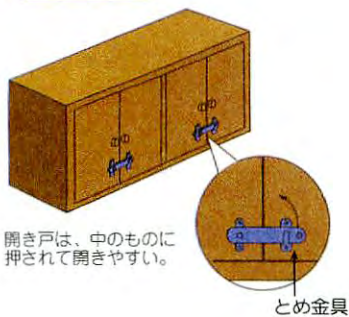
背の高い家具は、鴨居に金具やL型金具でとめる。



柱の見えない壁にとめる場合

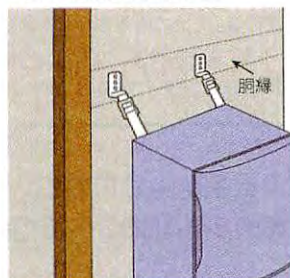


開き戸



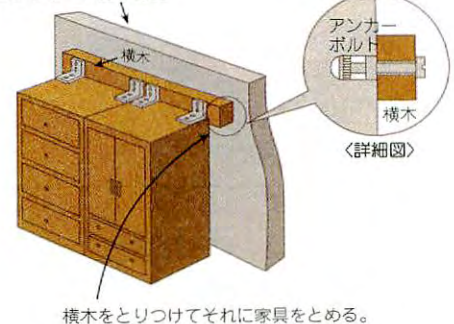
冷蔵庫

裏側にある取手(手カケ)に固定用ベルトを通して固定する。



鉄筋コンクリート造りの場合

コンクリート造りの壁



地域の自主防災活動に参加しよう

沼津市には 299 の自治会があり、そのほとんどが自主防災会を結成しています。会員は地域で暮らしている私たち全員です。一人ひとりが災害に備えて、日ごろから十分な準備をしておくことはもちろん大切です。しかし個人の力には限界があり、また東海地震のように被害が大

規模で広範囲にわたる災害が起これば、警察や消防など行政の対応にも限界があります。そのため、地域住民が協力し助けあい「**自分たちの地域は自分たちで守る**」んだ、という意識を強く持って、自主防災会活動を行うことが被害を少なくする最大のポイントです。

防災知識の普及

防災訓練や講演会を通じて正しい防災知識を身につけましょう。

- 防災講演会などへの積極的参加
- チラシ、パンフレットの配付
- 地域内の過去の災害例の調査



地域内の危険要因などの確認

災害が発生したときに、地域内の被害の発生、拡大につながる原因はないか、また援助の必要な災害弱者の把握を行います。

- 防災地図の作成
- 地域内の危険な場所の調査

防災資機材の整備

非常時の活動に必要な資機材を地域の実情や組織構成に合わせて準備します。

- 初期消火、救急救護、救出救助、避難誘導活動用の資機材の整備
- 備蓄資機材の整備点検



防災訓練の実施

日頃から災害に備え訓練を行い、防災活動に必要な知識や技術を習得します。

- 情報の収集・伝達訓練
- 消火訓練 ● 避難訓練
- 炊き出し等の給食・給水訓練



防災訓練の日程



■ 7月1日～7月10日は、津波対策推進旬間
一部の沿岸地域では津波避難訓練が行われます。

■ 8月30日～9月5日は、防災週間
9月1日「防災の日」には総合防災訓練が行われます。

■ 11月は、地震防災強化月間

■ 12月の第1日曜日は、地域防災の日
大規模な地震が突然発生したことを想定した訓練が行われます。

■ 1月15日～1月21日は、防災とボランティア週間
1月17日は「防災とボランティアの日」です。

総合防災訓練では、東海地震を想定し判定会の招集から警戒宣言の発令を経て地震発生に至る一連の動きを訓練します。

沼津市では、防災資機材を購入しようとする自主防災会に対し、費用の一部を助成しています。

詳しくは、防災地震課 ☎934-4803へご相談ください。

応急活動でまちを救え!

大地震の発生直後では、防災関係機関の活動に大変な困難が予想されます。こんなとき、被害を最小限に抑えるためには、まず**自主防災会が中心となって様々な応急活動を行う**ことが大切です。

非常時に、自主防災組織が行いたい応急活動のケースと、その活動に必要な資機材の例をあげるとおおむね次のようなものがあります。防災倉庫の備品を確認しておきましょう。

初期消火活動

地域の街頭消火器や水利などの確認。

- ・消火器
- ・可搬ポンプ
- ・消火ホース
- ・バケツ



避難誘導活動

避難は防災会ごとにまとめて。

- ・メガホン
- ・強力ライト
- ・ロープ
- ・リヤカー
- ・標旗



救急、救護活動

けがをした人の応急手当や搬送。

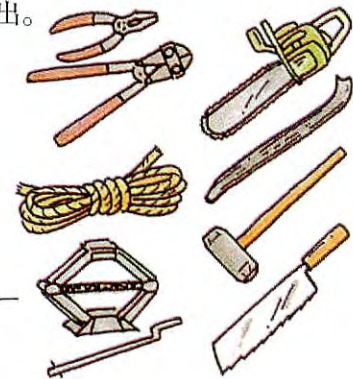
- ・担架
- ・毛布
- ・三角布
- ・救急セット
- ・リヤカー
- ・テント



救出、救助活動

倒壊家屋、ブロック塀などからの救出。

- ・バール
- ・ペンチ
- ・おの
- ・のこぎり
- ・ジャッキ
- ・ハンマー
- ・チェーンソー
- ・ロープ



給食、給水活動

水と食料の確保が重要。

- ・鍋、釜・こんろ
- ・燃料（まき等）
- ・ろ水器
- ・ポリタンク
- ・ビニールシート
- ・天幕テント
- ・ビニール袋
- ・備蓄食料



情報連絡活動

正確な情報をつかみデマに惑わされない。

- ・携帯ラジオ
- ・メガホン
- ・掲示板
- ・トランシーバー



大規模災害時には、同時多発火災など行政機関だけでは対応できません。地域のみんなの力が自分たちの地域を守る決め手です。

●マニュアル作成にあたり、静岡県地震対策資料を参考といたしました。
●本紙に掲載した地図は静岡県が測量法第29条に基づき国土交通省国土地理院の承認（承認番号第42号）を得て作成した地図の一部を転載したものです。

避難地一覧表

- 警戒宣言が発令されたら、速やかに避難地へ避難する自治会
 - 「津波危険地区」をもつ自治会（青色文字）
 - 「山・崖崩れ危険地区」をもつ自治会（緑色文字）
 - 上記両方の危険をもつ自治会（赤色文字）
 - 「脆弱地盤地域」をもつ自治会（茶色文字）

■その他の自治会は、原則として自宅や自宅付近の空地で地震に備え、被災したときのみ避難地へ避難する。

地区名	地区内自治会名	避難地
第一地区	上土町 末広町 八幡町 町方町 西条町 添地町 大手町 上本通町	第一小学校
	川麻町 志多町	中央公園
	真砂町 白銀町 錦丸子	第一中学校
第二地区 千本地区	本町一丁目 本町二丁目	浅間神社
	下河原西町 下河原南部 下河原東部 千本常盤町 旭町 宮町 港湾区 下河原団地	県立沼津西高校
	千本緑町 幸町 東間門 西浜町	第二中学校
第三地区	市道町 松下町	千本小学校
	西村町 宮本町 神明町 馬場町 石原 楊原 塩場 西木の宮 八間町 東八間町 西島町 三貫地	第三中学校
	第一宮脇 第二宮脇 八重 八重坂 外原 二瀬川 東八重 香貫が丘	県立沼津工業高校
	塩満 木の宮 東桃郷 藤井原 香貫台 鳥郷	香貫小学校
	江川町 東町 一本松町 津島町	我入道コミュニティ防災センター
第四地区	牛臥 浜町 林町 稲荷町 秋葉町 南条寺町	我入道公園
	中住町 中瀬町 黒瀬町 中原町 東豊栄町 西豊栄町 南本郷町西 南本郷町東 久保町 山下町 玉江町 宮原町	第四中学校
	住吉町 御幸町 三園町 通吉田町 吉田町 永代川瀬町 横島北町	香陵運動場
第五地区の一部、 大岡地区の一部	市場町	第四小学校
	三枚橋町 平町一丁目 平町二丁目 山王台 三芳町 山王前 シティコープ平町	山王公園
	富士見町 伝馬町 日の出町 弥生町 竹ノ岬 高田町 青葉町	沼津市立沼津高校
	泉町 泉町県職員住宅 五月町 北高島町 高島本町西 コーポラス三枚橋	第五中学校
	自由ヶ丘1区 自由ヶ丘2区 自由ヶ丘3区 自由ヶ丘4区 自由ヶ丘5区	市立加藤学園高校
開北地区の一部、 金岡地区の一部	米山町 新宿町 庄栄町 庄栄町北 庄栄町南 杉崎町 シティラック沼津	第五小学校
	高沢町 双葉町南 双葉町北 高島町 高島町西	開北小学校
金岡地区の一部、 第五地区の一部、 大岡地区の一部	本田町 沼北町 北新町 新沢田 竹の花	駿河グラウンド
	岡一色 門池町 緑ヶ丘 北園町 グランドール沼津 上石田（門池小学校のみ）	門池小学校
	池上町 御堂林町	門池中学校
	北小林 南小林 柏葉尾 小林団地 南小林団地	国立沼津高専
	岡宮（天神ヶ尾・共栄町を除く） 花園町 宮前町 足高拓南 東名町	県立沼津東高校
	明電町 柳町 神田町 北神明町 筒井町 岡宮（天神ヶ尾のみ）	金岡中学校
	雲雀台 岡宮（共栄町のみ）	飛龍高校
	東熊堂 西熊堂 沢田町 江原町 寿町 若葉町	金岡小学校
	東沢田 中沢田 西沢田 西沢田緑ヶ丘 大林 ウィステリア沢田	沢田小学校
	長塚町 駿河台	駿河台公園
大岡地区の一部、 金岡地区の一部	高尾台 豊町 松沢町	豊町公園
	富士町 上石田（大岡小学校区のみ） 中石田	大岡小学校
	日吉 下石田 石田ヶ丘 木瀬川 平和郷 大岡団地	大岡南小学校
愛鷹地区	大岡駅前町 沼平町 芝浦仙岳町 富岳町 大岡造り道 太田町 富士通大岡ハイツ	大岡中学校
	大久望町 西椎路 目黒身 エンゼルハイム西椎路 東原 東原ニュータウン 鳥谷 柳沢 青野	愛鷹地区センター
	小屋敷台 東椎路小屋敷 鷹根台 東椎路中東 椎の木 つばきヶ丘 東椎路久保 赤坂 桜台 東椎路中尾 春ノ木 芝原町 松見台 堤山 愛鷹宮本 ビューテラス愛鷹	県立沼津技術専門校 グラウンド
片浜地区	大諏訪 松長 大諏訪線北	片浜小学校
	西間門 小諏訪	片浜中学校
今沢地区	今沢 今沢市営団地 今沢雇用促進住宅 今沢県住 中今沢 北今沢 三本松 県営片浜団地	今沢小学校
大平地区	大平第1区 大平第5区 大平第6区 大平第7区 大平第9区 大平第10区 大平第11区	大平小学校
	大平第2区 大平第3区 大平第4区 大平第8区	大平中学校
静浦地区	志下 馬込	静浦西小学校
	獅子浜 江浦	静浦中学校
	多比 口野	静浦東小学校
内浦地区の一部	三津 小海 重寺	内浦小学校
内浦地区の一部、 西浦地区	久連 平沢 立保 古宇 足保 久料 江梨	西浦小学校
原地区	重須 長浜 河内 木負	長井崎中学校
	東町一区 東町二区 東町三区 西町一区 西町二区 六軒町 ニュータウン原 県営原町中団地 市営原町中団地 原町中	原小学校
	原新田 一本松 桃里 植田	原中学校
浮島地区	大塚新田 大塚本田 市営原団地 県営原団地 雇用促進住宅原 公団中央 原東沖	原東小学校
	根古屋 東井出 西井出 平沼 石川 荒久	浮島小学校
戸田地区	鬼川 小中島 大中島 一色 入浜 口南 奥南 大浦 御浜 小山田 上野 大門 中上 大上 新田 平戸	市道上野・平戸線
	井田	井田コミュニティ広場
	舟山	舟山ふれあい広場